

令和6年度支援計画 振り返り 宙

令和 7 年 4 月 1 日

コミュニケーションを図りながら集団活動に参加する。

活動目標 様々な活動を通して体力、考える力、意見を伝える力をつける。

見通しをもって活動に取り組む。

受け入れ施設の都合や感染症の流行等により、支援内容をやむを得ず変更する場合があります。

| 5領域 | ねらい | 支援内容 | まとめ |
|--------------|------------------------|---|--|
| 健康・生活 | 健康状態の維持・改善 | 健康状態の把握 健康の増進 | 手洗いやうがい等の基本的な生活習慣は定着してきたが、指の間、手の甲等も洗うことが不十分であるため毎日の手洗いの際に手本を見せて伝えた。十分な手洗いのためには声かけと見守りが必要であった。離席する際に椅子を引くことを繰り返し伝えることで自発的に出来るようになった。動作の理由を分かりやすい言葉やジェスチャー等で伝えることで、動作の意味を理解したうえで身につけることができた。 |
| | 生活リズムや生活習慣の形成 | リハビリテーションの実施 | |
| | 基本的な生活スキルの獲得 | 基本的な生活スキルの獲得 構造化等により生活環境を整える | |
| 運動・感覚 | 姿勢と運動・動作の向上 | 姿勢と運動・動作の基本的な技能の向上 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 | 足裏を床につけて座ることや椅子を引いて座ることを伝えたり見本を見せたりすることで正しい姿勢を維持できた。体育館活動を通じてバランス感覚を養ったり、散歩やウォーキングを重ねることで体力が付いたりするなど、日々の活動を通して様々な面で身体機能や運動能力を高めることができた。遊びやゲームを取り入れることで意欲的に参加できた。 |
| | 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 | 身体の移動能力の向上 保有する感覚の活用 | |
| | 保有する感覚の総合的な活用 | 感覚の補助および代行手段の活用 感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応 | |
| 認知・行動 | 認知の発達と行動の習得 | 感覚や認知の活用 知覚から行動への認知過程の発達 | 活動前や乗車前に、一人ずつ名前を呼びかけ順番を守る経験を繰り返すことで待つことが定着したが、立ち上がることが時折あるので声かけや見守りが必要である。玉入れ等で数を数えたり、おやつを選んだりすることで数の概念や選択する力が身についた。組み立ての玩具を意図して提供したことでブロック遊びによる空間把握の認知も身につけてきている。 |
| | 空間・時間、数等の概念形成の習得 | 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 数量、大小、色等の習得 | |
| | 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 | 認知の偏りへの対応 行動障害への予防及び対応 | |
| 言語・コミュニケーション | 言語の形成と活用 | 言語の形成と活用 | 挨拶や物の受け渡しの際に言葉やハンドサインを用いたやりとりを行い、コミュニケーションを図った。個々の言語スキルに合わせ、一語文から二語文に変換したり、ハンドサインに単語を加えたりしながら1対1で関わりをもつことができた。具体物の提示や指差しをすることで見通しをもった行動につながった。振り返りを通して、自分の思いを他者に伝えることができた。 |
| | 言語の受容及び表出 | 受容言語と表出言語の支援 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 | |
| | コミュニケーションの基礎的能力の向上 | 指差し、身振り、サイン等の活用 読み書き能力の向上のための支援 | |
| | コミュニケーション手段の選択と活用 | コミュニケーション機器の活用 | |
| 人間関係・社会性 | 他者との関わり(人間関係)の形成 | アタッチメント(愛着行動)の形成 模倣行動の支援 | 個別活動から徐々に集団活動へと誘いかけた。1人1人の歩く速度や関心などを把握して歩く順番やルートに配慮することで集団として歩くことができた。列後方を職員が付き添って誘導したり、製作材料を工程ごとに一つずつ渡して手本を見せたりすることで全員が活動に参加することができた。外出を重ねることで地域と交流を図ることができ、社会性の向上につながった。 |
| | 自己理解と行動の調整 | 感化運動遊びあそび象徴遊びへの支援 一人遊びから協同遊びへの支援 | |
| | 仲間づくりと集団への参加 | 自己の理解とコントロールのための支援 集団への参加への支援 | |

1 上記以外にも個別支援計画に沿った支援を適宜行ってまいります。